国 内 実 態 調 査 報 告 書

テーマ　　：ゼミの研究テーマである社会的企業を現地に訪問し実態調査を行う
ゼミ名　　：井上　義郎　ゼミ
調査日　　：2023年9月1日（金）～9月3日（日）
調査先　　：社会福祉法人　宮共生会
授業科目名：演習Ⅰ・Ⅱ、演習Ⅲ・Ⅳ
参加学生数：10名（3年生）、9名（4年生）

調査の趣旨（目的）

社会福祉法人宮共生会を訪問し、障害者就労支援をはじめとする社会福祉事業運営の実態調査を行う。
社会的な課題に対して、民間事業体の立場からどのように解決・支援に取り組んでいるかを調査・学習する。

調査結果

「分業」による運営体制が印象的でした。
社会福祉は、高齢者福祉や保育、障害者福祉、生活困窮者支援など、全てのライフステージでかかわる可能性を持っています。宮共生会は、地域と共助共存のできる共生社会の実現、障害のある方の生活の質の向上をミッションに掲げ、就労と活動に分けてニーズを分析し、それらの解消のために「わらびの里」を拠点に農福連携に取り組み、広く事業所を展開しました。
A型とB型の就労促進支援においても、細分化された仕事が利用者の方々ができる範囲で仕事ができる環境を提供し、異なる能力や障害のある方々がコミュニケーションを取りながら協力し、仕事を遂行している様子に驚きました。
就労継続支援においては、企業は技術的ケアを、社会福祉は生活リズムや人間関係のケアをそれぞれ提供することで、障害者雇用における定着率向上に貢献することを学びました。また、高い収益を実現する背景には、生産・加工・販売を一体化した6次産業化モデルを事業体内で構築していることに加えて、福祉的支援と就労支援の両輪のバランスを保っていることがあることを学びました。利用者の方だけでなく、事業所を運営する方の職場環境の整備も行っていることは、全ての民間事業体にとって理想的な姿だと考えます。さらに、この成功を持続させるために、利用者の工賃向上という目標を設定していることに感銘を受けました。
今回の視察を通じて、「分業」という基本的な仕組みが仕事の効率化にどれほど貢献できるかという基本的なことを学び、知識の深化も身近な出来事に起因することを再認識しました。それぞれが自身の役割を担い努めることが、より良い社会の構築に必要なことであると

感じました。
これからのキャリアにおいて、私たちは障害者雇用に関する理解あるリーダーシップを発揮します。今回の視察で、障害のある方々と共に働くことに対する臨場感を持つことができました。今後ますます広まるであろう障害者雇用に関して、この経験は大いに役立つと信じます。
この調査を通じて、社会福祉と障害者雇用に関する新たな視点を得ました。これからの学びやキャリアにおいて、宮共生会のような成功事例を参考にし、社会的な貢献を重要視する活動に貢献していきます。